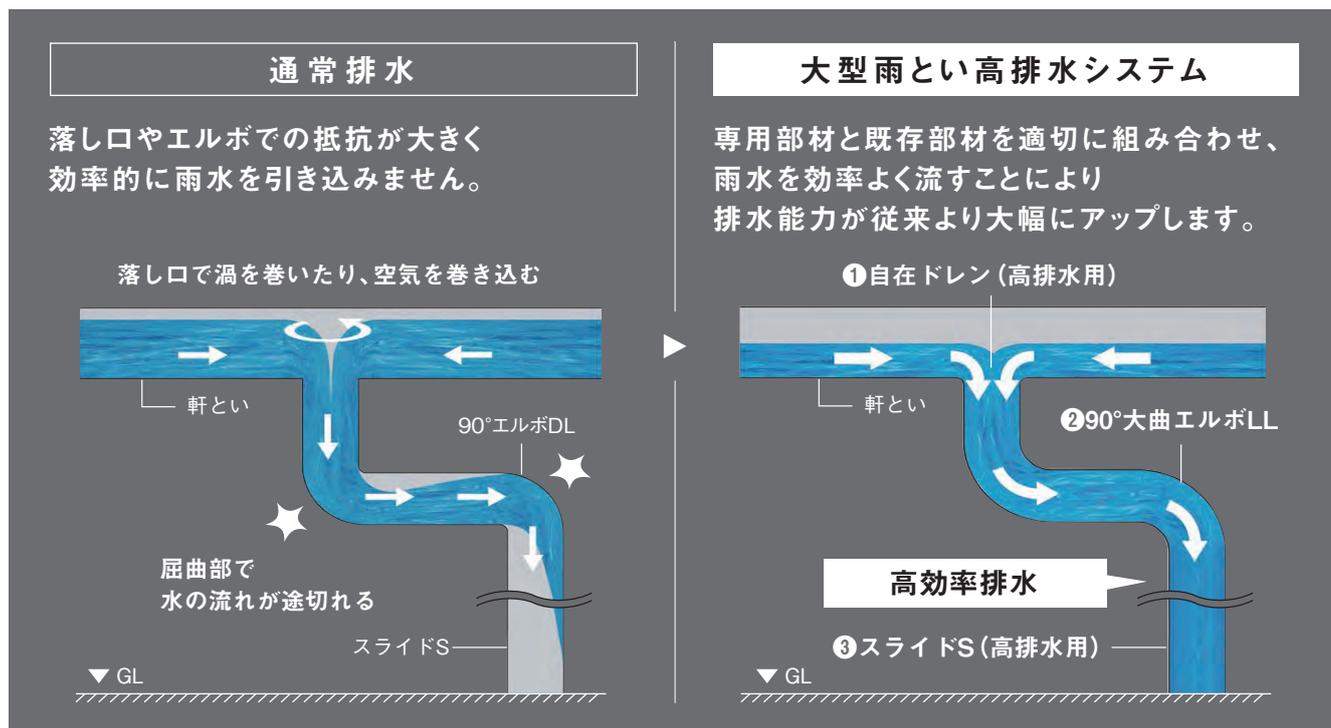
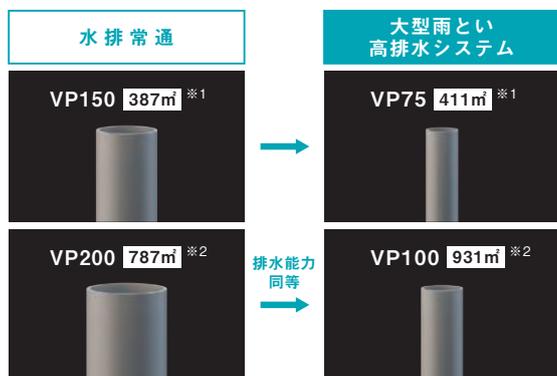


# 大型雨とい高排水システム Panasonic

<https://sumai.panasonic.jp/amatoi/high-drainage/about/#anc00>


## 大型雨とい高排水システムの特長

### 排水能力向上 ■ 落し口1か所当たりの適応屋根投影面積の比較



※1 降雨強度160mm/hを採用し、水勾配5/1000でエアロアイアン折版200I型と組み合わせた場合。  
 ※2 降雨強度160mm/hを採用し、水勾配5/1000で谷コイル幅300mm×高さ200mmと組み合わせた場合。たてといの垂直部(ストレート部)の長さが8m以上の場合。  
 ※専用部材をご使用の上、施工制約をお守りください。  
 ※屋根面積によっては落し口が減らない場合もあります。

### 建物に合わせて選べる5色。

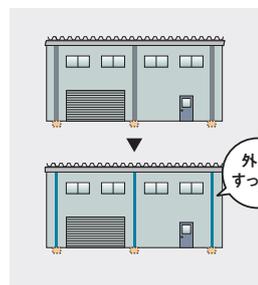


## 大型雨とい高排水システム使用による3つのメリット

### たてといのサイズダウンまたは落し口削減による3つのメリット

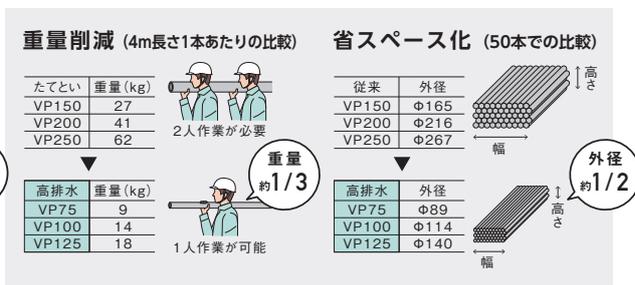
#### メリット1 外観意匠向上

たてといの存在感を軽減し、外観意匠が向上します。



#### メリット2 省施工

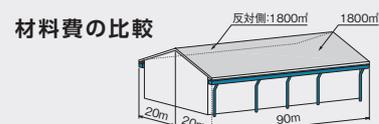
運搬・施工効率がアップ。現場での保管スペースも削減できます。



#### メリット3 経済性向上

材料費のコストダウンを実現。施工時間の短縮も期待できます。

### 材料費の比較



モデルケース	工場2階建て 軒高さ8m
屋根面積	3600㎡
降雨強度	160mm/h

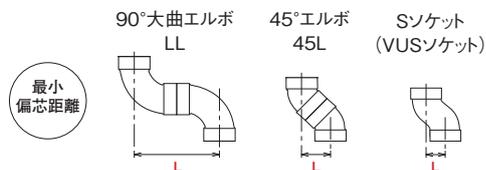
たてといVP150を100とした場合の指数  
(軒とい及び、落し口の数量は同じ)

たてとい	VP150	100
たてとい	高排水VP75	75

# 大型雨とい高排水システム設計のポイント

## ② 偏芯距離は1m以内

横引きの経路が長いと流速が落ちます。



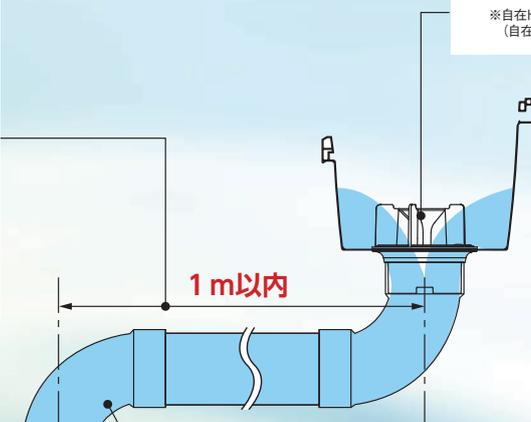
パイプ (JIS管) サイズ毎の最小偏芯距離

サイズ	L (mm)		
	90°大曲エルボ LL	45°エルボ 45L	Sソケット (VUSソケット)
高排水VP・VU75	280	92	45
高排水VP100	356	113	57
高排水VP125	410	146	70

## ① 専用の自在ドレンを使用

渦の発生や吸気を抑えることで軒とい内の水を効率的に引き込みます。

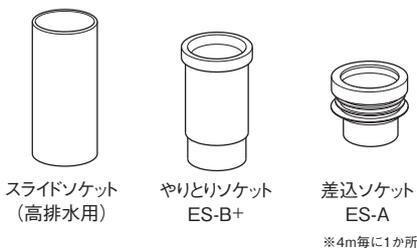
※自在ドレンはサイホンの補助的役割 (自在ドレンだけでサイホンは発生しません)



## ⑤ 伸縮吸収部について

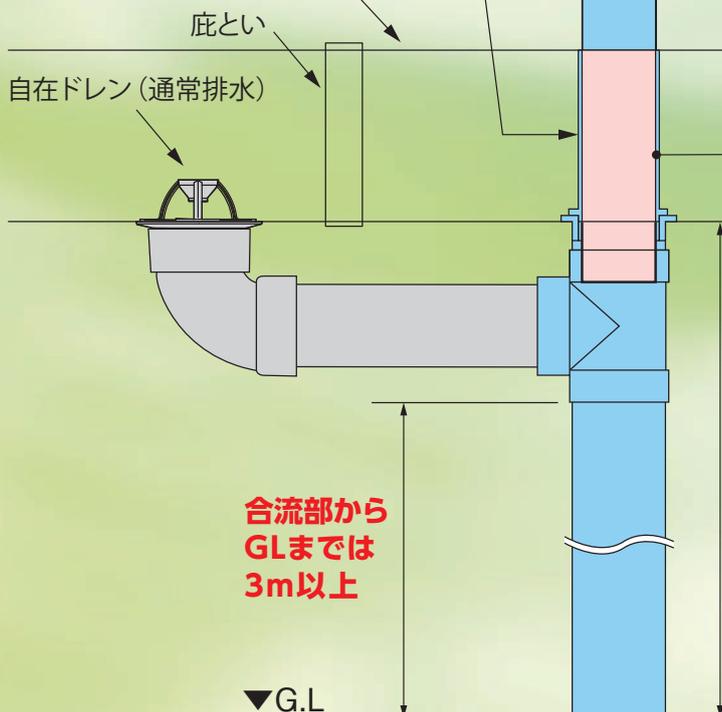
8m毎に1箇所

高排水システムで使用可能な伸縮吸収部材



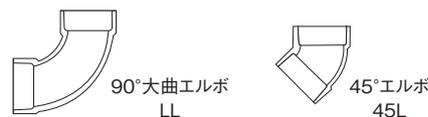
**貫通管を通したたてといは 庇といの底面より下まで挿入してください。**

貫通管と自在ドレンの間に庇といの支持金具が入るようにしてください。(強度保持のため)



## ③ 大型雨とい高排水システム対応のエルボを使用

滑らかな流路を作ることで、乱流が起こるのを防ぎます。



## ④ パイプ (JIS管) の垂直部 (ストレート部) の長さ規定

サイホン現象を発生させるために、直近のエルボ下から最上部のスライドS (高排水用) までの垂直距離は所定のたてといの長さをお守りください (左図A部)

パイプ (JIS管) の垂直部 (ストレート部) の長さ

サイズ	たてとい長さ A
高排水VP・VU75	3m以上
高排水VP100	6m以上※
高排水VP125	8m以上

※高排水VP100で、十分な排水能力を得るには、8m以上にしてください。(6m以上8m未満の場合は8m以上のときに比べて排水能力が少し低くなります。)

## ⑥ 庇合流部において貫通管を使用した設計の納まり

### 【貫通管の仕様】

サイズによって嵌合方式が違うため、接続部分の選定時にご注意ください。

